

2011.3.25版

物理学委員会 緊急対応とりまとめ

時 定数 レベル		緊急（日～週単位）	当面（月単位）	中期（年単位）～長期 （Vision）
物理学委員会 & 第三部		調査活動などをしばらく我慢する	研究設備のダメージの調査（各大学等による調査の集約）	
		放射能漏れがある状況で、2、3日後に直面するであろう課題について予言し、助言	「安心」へ向けた活動から、「安全」を実現する活動への転換	
		原発についての客観的な事実認識の表明	それに対する具体的な対応策の提示	
			回復に必要な予算と優先度の検討	大型実験施設や大電力を消費するような研究活動を、今後どのように持続的を持って展開するかの検討。
				スパコンを電力事情の良い地域へ疎開させる？
	国際対応	関連機関等（IUPAP, IAU, etc.）を通じ、科学的に正しい情報を国内外に発信		
学術会議		困っている現場の人の声を聞く		
		原子炉の問題解決に有効なアイデアがある場合、それを精選し、対策を指揮している人に適切に伝える方策を探す		
		地震・津波，原子力・放射線等に関する科学的知識の普及。		
		既存の情報源の精査，メタ情報ページの開設		
		低量被曝の身体影響について科学的なデータがない状況での、情報の取り扱いは社会科学的に非常に難しく、学術会議として取り組む緊急課題の一つ。		
				エネルギー問題について、国民の選択に資する科学的知識の普及。（人文学・社会科学の参画）
				リスク評価，社会的受容性，
				年間電力の需給，代替エネルギー，省エネ
				緊急時における学術会議の対応機能の強化と改善策
	国際対応	学術の立場から、科学的でわかりやすく、正しい情報を国内外に発信をする。（日本国民や留学生・在日外国人）		
		既存の情報源の精査，メタ情報ページの開設		
		我が国で研究や業務を行っている外国人の日本からの脱出への対応		
			国内や海外のメディアが取った対応を詳細検証する	
			日本政府が情報を隠しているとの諸外国からの批判についても、事実関係も含めて検証	
施策として	情報を開示			
	これからの二次災害を最小限に食い止めるための施策を考えること			
	現場のニーズに応える：被災地に自動発電機を配布する、関西地方から電気技師を派遣する、水の出ない土地には援助隊を出す、といった措置が現段階では最も喜ばれる施策であろう。	原発、大震災の被害を総合的に把握判断し、優先度を正しく判断して支援の資源配分を最適化する		
	地震観測網の修復			
	緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）の解析結果の公開			
	環境放射線モニターの充実。（できるところからはじめ、専門家が指導して回って数を増やす）		大学から高校辺りまで、環境放射線モニターを設置する。教育も兼ねる。	
	環境汚染の時空間データ詳細観測			
	汚染地域の時空間でのデータとそこで活動する人々の行動をリンク			

大学から高校辺りまで、環境放射線モニターを設置する。教育も兼ねる。

	今後の検証や今後の被害抑制のためにも今できるだけ記録を集積しておく事		
	今の問題のこれからの解決に活かすための、今までの危機対応の適否の分析	将来起きる問題の解決に活かすため今までの危機対応の適否の分析	
	原子炉で起きていることの一般人にわかりやすい解説を内閣府が提示		
		全国の勉学が困難な状況になった学生（被災した学生、家族を失った学生など全国の大学に分布）の救済・支援。	学生の勉学に関する措置（eg.国内外の中期留学の支援、奨学金、等）。来年度の進学予定者にも適用する。
		若手研究者の研究機会の継続	
	大学での報告申請等の弾力的運用		